

幾何入門 演習問題 7 (2012 年 5 月 31 日)

担当：境 圭一

1. 以下のベクトル場 V はいずれも \mathbb{R}^2 全体で定義される．このうち， $V = \text{grad}(f)$ の形になるものは，そのような f (ポテンシャル) を求めよ．そうならないものは，理由を述べよ．

$$(i) V = \begin{pmatrix} y \\ x \end{pmatrix} \quad (ii) V = \begin{pmatrix} -y \\ x \end{pmatrix} \quad (iii) V = \begin{pmatrix} x - 2y^2 \\ -4xy + 6y \end{pmatrix} \quad (iv) V = \frac{2}{x^2 + y^2 + 1} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

2. 放物線 $y = x^2$ と直線 $y = 1$ で囲まれる領域を Ω とおく．

- (1) 周期 4 の曲線 $\ell : \mathbb{R}^1 \rightarrow \mathbb{R}^2$ を

$$\ell(t) = (t, t^2) \quad (-1 \leq t \leq 1), \quad \ell(t) = (-t + 2, 1) \quad (1 \leq t \leq 3)$$

となるように定めると， ℓ は区分的に正則な閉曲線で， Ω に適合した向きを定めることを示せ．放物線の部分と直線の部分それぞれについて， $\ell(t)$ において Ω の外側に向かう単位法線ベクトル $n(t)$ を求めよ．

- (2) Ω 上のベクトル場 $V(x, y) = \begin{pmatrix} x + 2y \\ x - y \end{pmatrix}$ について， $\int_{-1}^3 V \cdot d\ell$ ， $\int_{-1}^3 V \cdot n \, dl$ を求めよ．

3. $f : \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$ を， $f(x) \geq 0$ であるような一変数関数とする．領域 Ω を

$$\Omega := \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid a \leq x \leq b, 0 \leq y \leq f(x)\}$$

で定義し， $\partial\Omega$ を表す周期 T の区分的に正則な閉曲線 $\ell : \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2$ と， $\ell(t)$ において Ω の内側から外側に向かう単位法ベクトル $n(t)$ を取る． \mathbb{R}^2 上のベクトル場 V で $\text{div} V = 1$ をみたすものに対し，次の等式を示せ．

$$\int_0^T V \cdot n \, dl = \int_a^b f(x) dx$$

レポート問題 7 (6/6 (水) 18:30 までに提出してください) 名前を忘れず書くこと

$\Omega := \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid 1 \leq x^2 + y^2 \leq 9\}$ 上のベクトル場 $V(x, y) = \left(\frac{y}{x^2 + y^2}, \frac{-x}{x^2 + y^2} \right)$ を考える．

- (1) 領域 Ω を図示せよ．また $\text{rot} V = 0$ を示せ．

- (2) $\ell(t) := 2 \begin{pmatrix} \cos t \\ \sin t \end{pmatrix}$ で定義される閉曲線 $\ell : \mathbb{R} \rightarrow \Omega$ を考える．線積分 $\int_0^{2\pi} V \cdot d\ell$ を計算し，値が 0 でないことを確かめよ．

注意．レポート問題は，単連結でない領域上では， $\text{rot} V = 0$ であっても $V = \text{grad}(f)$ となる f が存在するとは限らないことを示す例になっている．